

令和元年度
第 1 回 在宅医療コーディネーター養成研修会報告書

日時・場所	令和元年 9 月 17 日（火） 15：00～17：30 高松市医師会館
参加者	受講者 46 名
内 容	<p>説明：在宅医療コーディネーター養成の目的と役割 吉澤委員長 情報提供①：在宅医療コーディネーターの役割と業務内容 大橋委員 情報提供②：患者・家族の意思決定支援のポイント 片山委員 情報提供③：高松市在宅医療支援センターについて 高松市 山崎保健師長</p>
結 果	<p>1. 在宅医療コーディネーター養成の目的と役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高松市在宅医療介護連携推進会議における取組内容 ○高松市の在宅医療 平成 30 年度の取組内容 ○在宅ケア便利帳の紹介 ○高松市医師会・在宅医療ネットワーク構想 ○在宅医療コーディネーターの配置と役割 ○高松市における医療・介護連携のイメージ <p>2. 情報提供①：在宅医療コーディネーターの役割と業務内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療コーディネーターとは <ul style="list-style-type: none"> ・ 困難事例に必要な、意思決定（ACP）に基づいた支援を行う ・ 関係者に医療とケアマネジメントを含めた介護のサポートを行う ・ 医療～介護の架け橋づくりのサポートを行う ○病院完結型医療から地域完結型医療に変換 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院医師・在宅医・訪問看護師・介護スタッフと患者・家族との認識（意思決定）の共有が必要であり、これを調整するのがコーディネーターの役割である ・ 医療者は、市民がより良く生活できるように協力していく必要がある <p>3. 情報提供②：患者・家族の意思決定支援のポイントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケアにおける意思決定支援・ACP の重要性 ○尊厳ある生と死のために有効な ACP その定義と内容及び機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の最終段階の医療・ケアは本人の価値観を基盤とした ACP が重要である ・ 医療専門職は予後予測・病状判断をしながら ACP の実践を担う役割がある ・ 複雑な臨床に対応するには AD ではなく ACP が有効である ・ ACP の適切な理解の必要性「ACP 推進のための提言書」日本老年医学会 ○在宅医療・ケアは、生命の二重理論を理解し共有意思決定モデルを用いて ACP を実践し、個別的なオーダーメイド医療・ケアを提供する ○在宅医療コーディネーターは、その所属・職種に応じて、第 1～第 3 段階の適切な場とタイミングで ACP ファシリテーターの役割を担う <p>4. 情報提供③：高松市在宅医療支援センターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療支援センターの役割

在宅医療に関する相談窓口、退院調整への支援、在宅医療の普及・啓発

○在宅医療支援センターの活動報告（H30.10月～R1.8月末）

相談件数は93件。相談者は本人・家族が6割で、次がケアマネジャー、地域連携室。本人・家族からは、退院後の介護保険施設の入所に関する相談が多く、ケアマネジャーや地域連携室からは、関係機関の紹介に関する相談が多かった

○具体的な相談事例の紹介

○医療と介護のネットワークについて

在宅医療支援センターは、医療側の窓口として、介護側の窓口である地域包括支援センターと連携しながら取り組んでいく